

オムロンパイプオルガンコンサートシリーズ Vol.61 「オルガン・ポップス」

公演直前

号外

2月24日(土)
14時開演

オルガニスト 近藤岳 特別インタビュー



人気のパイプオルガンコンサートシリーズに、ミュザ川崎シンフォニーホール専属オルガニストの近藤岳(こんどう たけし)氏が登場します。

彼が今回選んだプログラムのテーマは、ズバリ「宇宙」。時代・国・ジャンルの垣根を越えて、果てしなく続く「宇宙」をパイプオルガンで描きます。京都コンサートホールには2度目の登場となる近藤氏。今回、皆様に彼の魅力をより知っていただくために、さまざまな質問をぶつけてみました。一部を抜粋してご紹介します。

※インタビュー全文は京都コンサートホール公式ブログに掲載しております。
ぜひご覧ください。



©青柳 聡

Q. 近藤さんが京都コンサートホールで演奏してくださるのは実に8年弱ぶりになりますね。
ご自身が感じる「オルガンの魅力」を教えてください。

A. やはりパイプからほとばしる「持続音」を、両手両足を駆使して何声部も同時に表現できるところでしょうか。こんな楽器はオルガン以外無いように思います。全身を使って「歌」を歌う、楽器と空間と一体になって歌を歌えることが僕にとって一番の魅力です。またそれらの歌を、実に様々な音色を伴って表現できることもオルガンの醍醐味だと感じています。

Q. 今回のプログラムの聴きどころを教えてください。

A. 今回のコンサートは、「天体」や「宇宙」になぞらえたプログラムなのですが、実はその中に、バロック時代のブクステフーデからバッハの音楽的つながりや、新旧の変奏曲の変遷が聴こえたり、ヴィエルヌが描く美しい「月の光」とグバイドゥーリナの前衛的な「光と闇」が絶妙なコントラストを浮かび上がらせたり…と、バロック～現代の曲想の振れ幅はもちろん、緩急を大いに織り交ぜて、およそ300年の時空をオルガンの響きで自由に旅をするようなプログラムとなりました。最後のホルスト～J. ヴィリアムズのメドレーは、まさにスリリングな「宇宙への旅」となることでしょう！皆さんが思い思いのストーリーを描いて下さったらこんな嬉しい事はありません。どうぞお楽しみください！

Q. 最後に京都のお客さまに向けてのメッセージをお願いします。

A. 前回初めて京都コンサートホールに伺ってから7、8年が経つでしょうか、再訪の機会を頂き大変嬉しく思っています。今回はオルガンで聴く「宇宙」をテーマに、天体にちなんだもの、宇宙を思わせるものを集め、コンサート全体が大きな一遍のストーリーに感じられれば…とプログラミングしました。オルガンの多彩な表現や豊かな響き、無限の広がりどうぞご期待下さい。皆さまと会場でお会いできるのを楽しみにしております！

公演情報

チケット好評発売中

2018年2月24日(土)14:00開演(13:00開場) 京都コンサートホール 大ホール

[曲目]ブクステフーデ: パッサカリア ニ短調 BuxWV161/J.S.バッハ: パッサカリア ハ短調 BWV582

近藤岳: 「きらきら星」の主題による変奏曲/ヴィエルヌ: 太陽への讃歌 op.53-3、月の光 op.53-5

ホルスト: 『惑星』より「火星」～J. ヴィリアムズ: 『スターウォーズ』より「メインテーマ」 ほか

[チケット]全席自由 一般 1,000円(会員900円)/高校生以下 500円※障がいのある方割引あり

[問合せ]京都コンサートホール 075-711-3231 (10:00～17:00/第1・3月曜休)